

子供の頃より活発かつおてんばなりし吾、東京在住中は高き木によち登り、枝を傳ひて屋根にあがり、両親やら祖母などにしばしば叱られたり。海外においては車好きの父、吾に車の種類記憶せしむ。パリにおいて、我がおもちやは人形やままごこと道具にあらずして、ガソリンスタンドや消防署の模型など、およそ女の子らしからぬもの多かりけり。

ワシントンにて父は二年に一度、二臺の車を交互に買ひ替ふるを常とす。十六歳にて免許を取りし吾にいづれの車にか乗らんと慾するを問ふ。その当時ジェームズ・ボンドの「ゴールドフィンガー」なる映畫上映せられ、例により、多様な装置を駆使する主人公ムスタングなる車を重寶するあり。冗談にムスタングが所望と父に傳へし數日後、學校より歸宅したれば銀色のムスタング我が家の駐車場に留りてあり。我が家にては三臺目の車なりき。父は自分の車一年前に銀色のサンダーボードを英國車のジャガーに買ひ替へ、母はダットサン(現日産)の初代フェアレディーを運轉せり。この頃より吾は獨りドライブするを好み、いささかもスピード狂ならねど、牀に設けたる五段シフトにて、エンジンブレーキの可能なるマニュアル車を愛でたり。

初任給にて吾は、富士重工のスバル千百なるエンジンの轟音耐へ難き前輪駆動の車を購入、その後もいすずのベレットGT、日産のブルーボード二〇〇〇GTXなどスポーツタイプの車多し。吾にとり初めての外車は、車のディーラーに大いに値引きせんと、強ひられて買ひたる深紅のベンツなり。思はざりき、數々の不便を被る破目になり、色々笑ひ話になりたるとは。

まづ、葬式には不適切なる車なり。當時は朝日新聞社に勤務の頃なり。ある人の葬義に參列するため、國道二四六を走行中、知り合ひの車信號にて隣に停車せり。運轉席の扉を開け、相手の窓をノックし、吾道良く分からずとて、案内を依頼せり。そを見し後續の車の仲間、黒装束にて赤き車に乗りたるヤクザの姐御にイチヤモン附けられし氣の毒なる仲間を助けに行かんと話す間に、二臺の車走り去れりとの噂にて、翌日の社内大いに笑ひ話に沸けるの顛末ありき。話は續く。葬儀場に到着し、駐車して葬儀に參列の後、親友と歸らむとせしところ、一方通行にて何と長蛇の人の列の前を深紅の車にて通る破目になりき。親友と吾は顔上ぐるも恥づかしく、伏し目にてゆつくりと前進せり。親友曰く「赤き車にて葬式に行くは憚からる。」以後、我が愛車はメタリック・ブルーに落ち著き、現在既に四臺目のブルー車なるは、汚れ目立つこと少なく、つねに美しく映ゆるがゆゑと申さんか。かくて我は以後、赤き車を求むることなかりき。